

テーマ：2017年1-3月期GDP予測（最終版）
 ～前期比年率+2.3%の高成長を予想～

発表日：2017年5月12日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL:03-5221-4528

2017年1-3月期の実質GDP成長率（5月18日公表予定）を前期比年率+2.3%（前期比+0.6%）と予測する。筆者は4月28日の段階で前期比年率+1.8%（前期比+0.4%）と予想していたが、その後公表された経済指標の結果を反映し、予測値を上方修正する。

上方修正の主因は外需と個人消費である。昨日公表された3月分の国際収支統計では、筆者の想定よりもサービス輸出が上振れており、輸出の予測値を前期比+2.3%（従来予測値：同+1.9%）に上方修正した（輸入の予測値は前期比+1.3%で変わらず）。外需寄与度の予測値は前期比年率+0.6%Ptと、従来予測値から0.2%Ptの上方修正となる。また、個人消費についても前期比+0.4%と、従来予測値（+0.3%）から若干上方修正した。3月分の家計消費状況調査や2月分のサービス産業動向調査などの結果を反映させたことが理由である。外需、個人消費以外の需要項目については予測値を変更していない。

このように、1-3月期は潜在成長率を明確に上回る高成長が見込まれ、10-12月期からも伸び率が加速するとみられる。景気が好調に推移していることが改めて確認できる結果になるだろう。輸出が3四半期連続で高い伸びになり、景気回復を牽引したとみられることに加え、16年10-12月期に低調だった個人消費が持ち直すとみられる。在庫調整の終了から在庫投資がプラス寄与に転じることも成長率を押し上げる見込みだ。

先行きについても、輸出の増加が続く可能性が高いことに加え、景気対策効果の顕在化によって公共投資も増加が予想される。1-3月期に足踏みとなった設備投資についても、企業収益の持ち直しや景況感の回復を受けて増加が期待できる。今後も着実な景気回復が続く可能性が高いだろう。

（需要項目ごとの予測値の詳細と解説は、Economic Indicators「2017年1-3月期GDP予測」（4月28日発行）をご参照ください）

2017年1-3月期GDP予測

(%)	
実質GDP	0.6
(前期比年率)	2.3
内需寄与度	0.4
外需寄与度	0.2
民間最終消費支出	0.4
民間住宅	1.2
民間企業設備	▲ 0.4
民間在庫変動(寄与度)	0.1
政府最終消費支出	0.3
公的固定資本形成	0.3
財貨・サービスの輸出	2.3
財貨・サービスの輸入	1.3
名目GDP	0.1
(前期比年率)	0.4

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所) 内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所